

2025年は次の100年に向けて ゴルフ振興を加速させる1年に

創立100周年を迎えた昨年、JGAは組織改革やさまざまなゴルフ振興策を実行した。そして101年目に入る2025年、さらなる新策を打ち出し、日本ゴルフ界の旗振り役としてゴルフ振興を加速させていく。どのような取り組みを行い、また企画しているのか。山中博史専務執行役に聞いた。



組織改革、新大会発足等を実現した JGA創立100周年

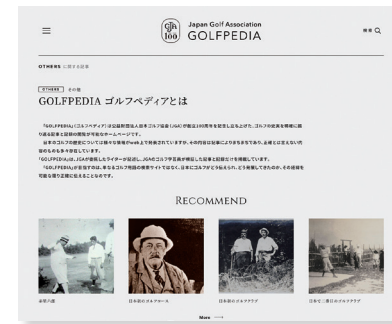
—— 創立100周年を迎えた昨年、JGAとしてどのような取り組みを行ったのでしょうか。

山中 100周年ですので本来であれば式典などができればよかったのですが、現在の状況を鑑み、JGAとして次の50年、100年をどうするかをきちんと検証して101年目からやるべきことを始めるきっかけの年にしようということに力を注いだ1年だったと思います。具体的にどのようなことを実行したのかと言いますと、ひとつは公益法人としてのガバナンスコードに則って6月の役員改選時に10年以上理事を務めた方と80歳以上の理事の退任、外部理事25%以上、女性理事40%の4点を達成しました。なかなかこういったガバ

ナンスコードを達成できない競技団体がある中でゴルフ界は組織改革を実行できたことが100周年の大きな出来事のひとつと言えるでしょう。

—— 創立100周年のような節目の年には記念誌などを発行する競技団体が多いと思いますが、JGAは出ませんでした。

山中 記念誌を出すべきだろうという意見はありました。ただ、今はデジタルの時代ですから検討を重ねた結果、競技やゴルフ場、用具などを含めゴルフを取り巻くさまざまな歴史を検証し、正しく伝えていけるものをウェブ上でつくって「GOLFPEDIA」(ゴルフペディア)を開発しました。これはデジタルですからどんどん書きができる。記念誌よりもいい形で日本のゴルフの史実をJGAとして発信できると考えています。



JGA創立100周年の節目に、ゴルフの史実を明確に振り返る記事と記録の閲覧が可能な「GOLFPEDIA」を開発した



3オープンで好評だった100周年のロゴマークが入ったグッズ

—— 昨年は100周年のロゴマークを各所で見かけました。

山中 JGAが主催する3オープンの会場などで100周年のロゴマークを掲出し、中継のNHKさんにも100周年をアピールしていただきました。また3オープンの会場で100周年のロゴマークが入ったグッズも販売し、好評でした。

—— 殿堂についてはいかがですか。

山中 10年以上前にプロの団体だけで日本プロゴルフ殿堂が設立されて顕彰などを行ってきました。ただ、ゴルフの殿堂として本来あるべき姿を考えた時にプロゴルファーだけでなくアマチュアゴルファーやゴルフ界に尽力された方々も顕彰して末永く語り継いでいくべきではないかということで、数年前から日本プロゴルフ殿堂とJGAで話し合い、今年から日本ゴルフ界全体の殿堂である日本ゴルフ殿堂をスタートするための準備をした1年でもありましたね。

—— 競技面では60歳以上の女性ゴルファーを対象にした日本女子グランドシニアゴルフ選手権を創設して第1回大会を武蔵カントリークラブ笹井コースで開催しました。

山中 はい。男子はシニア(55歳以上)、ミッドシニア(65歳以上)、グランドシニア(70歳以上)とシニアの中でも3つの年齢別カテゴリーがありますが、女子はシニア(50歳以上)だけでしたので以前から要望はありました。後ほどお話しするゴルフ振興にもつながることですが、女性ゴルファーを増やすこととシニア層にいかにか元気にプレーを続けていただくかということが大事です。その意味でも女子にグランドシニアをつくった意義は大きく、選手もモチベーションが上がったと喜んでくれていると聞きます。もうひとつ、100周年の昨年は日本女子シニアオープン創設の準備と発表をした年でもありました。今年も女子プロのシニア(45歳以上が対象のレジェンズツアー)の大会である太陽生命元気・長生きカップを引き継ぐ形で従来とほぼ同じ形で開催しますが、来年以降は出場資格や競技日数、年齢などをどのようにするか協議しているところです。また、夏に開催されているJGA主催の日本ジュニアゴルフ選手権と日本高等学校・中学校ゴルフ連盟主催の全国高等学校・中学校ゴルフ選手権個人の部を一本化し、今年から両団体共催の日本ジュニアゴルフ選手権として開催することを発表しました。このところの夏の記録的猛暑の中での連戦を避けるとともに、一本化することにより日本ジュニアゴルフ選手権と全国高等学校・中学校ゴルフ選手権団体の部それぞれの価値を高める意味合いがあります。

パリ五輪で銅メダルを獲得した松山英樹選手



© IGF

新スローガンのもと、さまざまなゴルフ振興に取り組んだ

—— 100周年に開催した3オープン(日本オープンゴルフ選手権、日本女子オープンゴルフ選手権、日本シニアオープンゴルフ選手権)は盛況だったのではないですか。

山中 試合展開が面白かったですし、おかげさまで各大会の評価は概ねよかったと思います。ただ、3オープンとも夏の猛暑でコースコンディションづくりには非常に苦労しました。またアマチュア競技では、日本アマチュアゴルフ選手権は残念ながら悪天候で最終日が中止になってしまいました。予備日は設けていたのですが、36ホールに満たず競技が成立しない場合のためという規定だったので54ホールを終えていた昨年のケースでは使えませんでした。少なくとも日本アマと日本女子アマは極力72ホールできるようにしたいので、規定の変更などを話し合っています。

—— パリ五輪では松山英樹選手が見事に銅メダルを獲得しました。

山中 金メダルを獲れなかったのは悔しかったと思いますが、3位であれほど喜んだ松山選手を見たのは初めてでしたね。ただ、オリンピックではプロの一流選手をトップの状態に持っていける環境をつくるのは、我々JGAだけでは難しいということが反省点として浮かび上がりました。選手団のサポート体制については次のロサンゼルス五輪に向けて、プロ団体とも協議して再構築したいと考えています。

大いに盛り上がりを見せた日本女子オープン



ゴルフ振興のスローガンとロゴマーク「Golf is Good! ゴルフっていいね!」



ゴルフ振興の取り組みなどを発信するゴルフ応援サイト



健康維持増進のためのゴルフスクール「JGA WAGスクール」



日本女子OP歴代優勝者による女性限定レッスン会での塩谷育代プロと受講者

—— 次に昨年のゴルフ振興への取り組みについてお聞かせください。

山中 まず3月に「Golf is Good! ゴルフっていいね!」というゴルフ振興全体のスローガンとロゴマークをつくりました。「Golf is Good!」は元々、R&Aのキャンペーンで、この言葉から「ゴルフっていいね!」という日本語をつくり、R&Aに許可をもらってスローガンとしました。ゴルフ振興推進本部では現在、3つの部会を設けてゴルフ振興に取り組んでいます。まず情報シェアリング部会ですが、ゴルフ応援サイトでゴルフ関連団体やゴルフ場で行っているゴルフ振興の取り組みなどを発信しています。ただ、投稿数、閲覧数ともに伸び悩んでいますので、より多くの方に見ただけのような策を考えています。

—— ゴルフと健康部会ではどのような活動をされましたか。

山中 ゴルフは健康によく、認知症対策にもなるというエビデンスが世界中で始まっています。それをみなさんにどう分かりやすく伝えていけるかがテーマなのですが、世の中健康志向ですから国もゴルフと健康には興味を持っていて感じています。イベントとしてはゴルフを通じた健康維持増進のためのスクールであるJGA WAGスクールと3オープンの会場でスタンプラリーの「ごる印めぐり」などを実施しました。

「ごる印めぐり」は2年目でしたが多くの方が参加してくれましたね。来年以降も続けたいですし、他のトーナメントでもやっていただければと思っていますところ。

—— 女性とゴルフ部会はいかがでしょう。

山中 新たに「Women's Golf Now」の活動名称とロゴをつくり、いろんなゴルフ関連団体とも協力して女性ゴルファーを増やすためのさまざまな策を講じた1年でした。そのひとつが日本女子オープン開催週に合わせて実施した「秋の女性とゴルフ週間(9月15～29日)」です。会場となった大根根カントリークラブ近くの練習場では日本女子オープン歴代チャンピオン4名(塩谷育代、服部道子、馬場ゆかり、諸見里しのぶ)のプロによる女性限定レッスン会などを行いました。

—— 日本における女性ゴルファーの割合は全体の約15%という話を聞いたことがありますが、その割合は増えているのでしょうか。

山中 ゴルフ場の入場者数は正確に分かるのですが実は男女の比率は正確なデータがないのです。ただゴルフ場や練習場で見かける女性ゴルファーやトーナメントに来場する女性が増えていると感じています。今後はゴルフ場支配人会に協力していただき男女比率のデータをとる方向ですので、近いうちにある程度の正しい数字が分かると思います。

寄附金を広く募り、ゴルフを通じた社会貢献を推進していく

—— 次に今年、2025年に企画している取り組みをお聞かせください。

山中 まず、ゴルフ振興の一環として「Tee it FORWARD」(ティー・イット・フォワード)というUSGA(全米ゴルフ協会)とPGAオブアメリカ(全米プロゴルフ協会)が共同でつくったプログラムを日本でも広めていこうと考えています。これはゴルファーがそれぞれの飛距離に合うティーイングエリアからプレーすることでゴルフがより楽しくなり、プレーのペースを向上させることにもつながるというものです。ドライバーの飛距離に応じた最適な距離のガイドラインがあり、たとえば200ヤードならば5,200~5,400ヤードなのです。パー4の2打目が絶対届かない距離や、毎ホール2打目でフェアウェイウッドを使うようでは、本当にプレーを楽しめるでしょうか。最適な距離のティーイングエリアを選ぶことでパーオンを狙える楽しさが出てきますし、スコアも良くなる。これは世界的な傾向でもありますし、こういうことを訴求していくのもJGAの仕事だと考えています。

Tee it FORWARD

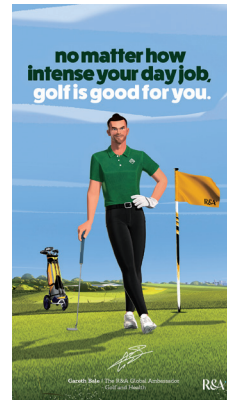
TEE IT FORWARDのガイドラインを参考にどのティーイングエリアからプレーするのが最適かを選んでください。

ティー選択のガイドライン

ドライバーの飛距離	推奨される18ホールのヤードージ
275	6,700-6,900
250	6,200-6,400
225	5,800-6,000
200	5,200-5,400
175	4,400-4,600
150	3,500-3,700
125	2,800-3,000
100	2,100-2,300

この表はゴルファーが自分の平均ドライビング飛距離に応じた最適なコースの長さを選ぶガイドラインとして使われます。

R&Aのアンバサダーに起用されている元サッカー選手のガレス・ベイル氏



© R&A

—— 他には何かありますか。

山中 R&Aからゴルフ振興を象徴するようなアンバサダーを置いたらどうかと提案されており、人選を進めているところです。R&Aも元ウェールズ代表の著名なサッカー選手のガレス・ベイル氏らをアンバサダーに起用してゴルフ振興に協力してもらっています。

—— 今年に寄附金の募集にも力を入れていくと聞きました。

山中 はい。ほかの競技団体も同じなのですが、東京五輪の後、国からの助成金がどんどん減っているというのが現状です。しかし、ゴルフ振興をはじめJGAとしてやるべき事業は増えている。これらの事業を実行するには従来の収入だけでは十分ではありません。ゴルフを通じた社会貢献に役立てたいと考えていただける企業や個人にPRして、今まで以上に広く寄附をお願いしていこうというものです。これまでも日本代表支援の寄附金などを募集していましたが、今年からはJGAの各事業に対して、例えば、ゴルフと健康の事業への寄附といった形で広く募ることができればと考えています。ゴルフは健康の維持や仲間づくりに役立ちますし、ゴルフ場がある地域の雇用促進や災害時の避難場所にもなり得ます。JGAのような公益法人に対する寄附には控除が認められますから、ゴルフを通じた地域貢献、社会貢献にぜひ協力していただければと思います。JGAはゴルフの統轄団体と呼ばれていますが、職員は20数名しかいませんし、財政的にも厳しい状況です。JGAだけでは何事も成し遂げることはできません。地区連盟やゴルフ関連団体をはじめ周囲のみなさんと一緒になってやっていくことが必要です。JGAは旗振り役としてゴルフ振興や競技の運営、ゴルフを取り巻く環境の整備などさまざまなことに取り組んでいきます。創立101年目となる2025年は次の100年に向けて新たな一歩を踏み出す年にと考えています。

ゴルフができる今日は、幸せな日。
 自慢できるほどのスコアではないけれど、
 大きな心配ごとがなく、体調もほどほどで、
 日常から離れてクラブを振れるなら、それが私の幸せ。
 振り返れば、新緑の中で仲間が笑っている。
 今日はコーヒーでも飲んで帰ろう。



5月は FUN to GOLF! ゴルフ月間

2025年5/1(木) ▶ 5/31(土)

春の **女性とゴルフ週間** 2025年 5/11(日) ▶ 5/25(日)

世界80カ国、200ヶ所で開催。女性ゴルファーのためのイベント。

WOMEN'S GOLF DAY 2025年 5/27(火) ▶ 6/3(火)

健康維持増進のための **ゴルフスクール**

WAG
 ウイズ・エイジゴルフ

